

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

先行き不透明な経済社会にあって、機動性と小回り性、そして先進性と革新性を備えている中小企業に、次代の日本経済の発展を切り開く役割が期待されている。しかし、他方では多くの中小企業が時代の困難の中で疲弊するなど、次代の発展を展望できずにいる。そうした期待と困難の中で揺れ動きながら変化し続けている中小企業の発展課題などを、中小企業振興を目的に設立された東京都商工指導所における企業診断、経営相談、業界調査研究などの実務経験に基づき、事例等を含めて理解しやすく講義する。

授業計画

第 1 回	中小企業とは何か、中小企業の定義と支援の意味
第 2 回	社会的分業と中小企業（産業的視点から）
第 3 回	地域間分業と中小企業（地域的視点から）
第 4 回	大都市の中小企業の諸問題－東京大田区の中小企業（事例を通じて）
第 5 回	大都市の中小企業の諸問題－東大阪市の中小企業（事例を通じて）
第 6 回	地方圏の中小企業の諸問題－事例地域の中小企業を取り上げて
第 7 回	日本産業と中小企業－自動車産業を取り上げて
第 8 回	日本産業と中小企業－電機産業を取り上げて
第 9 回	海外進出時代の中小企業の困難と発展可能性
第 10 回	国内生産における中小企業の困難と発展可能性
第 11 回	アパレル産業における製品企画と生産・流通構造
第 12 回	繊維産業における中小企業の困難と発展可能性
第 13 回	流通構造変化の中での製造、卸、小売の変貌
第 14 回	変貌する地場産業の行方
第 15 回	ベンチャー企業支援と中小企業政策の行方
第 16 回	期末試験

到達目標

変化し続ける中小企業の実態を事例等を通じて学ぶことで、専門的な知識や技能を修得すると共に、わが国の経済社会を見通す能力や豊かな人間性を兼ね備えた問題解決能力を身につけることを目的とする。

履修上の注意

中小企業とは何かを学ぶことは、皆さんの今後の経済社会における活動において有益であると考えているので真摯に受講すること。

なお、講義内容を理解するためにも、遅刻せず受講すること。

予習・復習

中小企業についてのテレビ、新聞等の報道に関心を持つこと。また、講義した関心のある内容については、参考文献を含めた各種の文献、資料を読むこと。

評価方法

期末試験の成績（80%）、受講態度（20%）により評価する。

テキスト

特に教科書は使用しない。

参考文献として、

加藤秀雄『外需時代の日本産業と中小企業－半導体製造装置産業と工作機械産業』新評論、2015年

加藤秀雄『日本産業と中小企業－海外生産と国内生産の行方』新評論、2011年、をあげておく。